

業務実施報告書

受入集落 南会津町針生

北海道教育大学岩見沢校アウトドアライフコース 代表者 川村智夢

南会津針生町

- ・人口約400人，海拔700～800m
- ・日本海側の気候で例年1～1.5mの積雪があり，豪雪地帯となっている。
- ・産業は農業が盛んで稲作やトマトなどが作られている。また，スキー場やキャンプ場があり観光業にも力を入れている。

活動実施前の針生のイメージ

- ・山に囲まれている
- ・田舎の町
- ・優しい人多そう
- ・自然が豊か
- ・川が綺麗
- ・買い物がちょっと大変そう

活動内容

・針生に行き調査をする予定だったが，コロナ禍のため ZOOM でのオンライン交流会を行った。区長さん，役場の長沼さん，地域おこし協力隊の渋川さん，針生出身の湯田さんと「針生での暮らし，アウトドア，観光産業，これからの針生」などについて話し合った。

活動による発見

・南会津町針生はアウトドアをする人にとって素晴らしいフィールドである。4つのスキー場，三ツ岩岳などでのバックカントリースキー，キャンプ場，溪流釣り，マウンテンバイク，ジップラインなど季節に合わせて多種多様なアウトドアを楽しむことができ，地元の子供が自然の中で遊べる素晴らしい環境になっている。

・自然についてより深く教えてくれる「森の案内人」が南会津支部に30人ほどいる。活動内容は駒止湿原の案内，和かんじきウォークの手伝い，冬山のガイドなどを行っている。

・NPO 法人ひのきスポーツクラブは子供からお年寄りまでスポーツを通していきいきとした針生を目指して活動している。内容は針生全域で鬼ごっこや，川遊び，虫取りゲームなどを行っている。

・フィッシングロッジサンライズ。釣り人のためのフリーコミュニティスペース。のんびりと休憩することができ，釣り場の情報も知ることができる。このように針生の自然で楽しむための環境がある。

これからの針生について

針生出身の湯田さんは以下のように述べていた。

「観光地的な可能性よりも、地元の子供たちが自分の遊び道具を持って冒険できるような環境を作っていきたい。使っていない棚田をキャンプ場にするなど、工夫をしながら楽しい遊び場を作っていきたい。」

地域おこし協力隊の渋川さんは以下のように述べていた。

「将来子供たちが地元のために働いて、ずっとここで暮らしたいと思うような「きっかけ」を与えられるようにしていきたい。」

今後の関わり方

・来年度以降は、現地に実際に行き様々なことを体験しながら針生について知って行きたい。そして、アウトドアライフコースの学生による企画で地元の子供達と交流したいと思っている。冬は地元の子供とスキー、冬のアクティビティを学生が提案して子供達と遊ぶなど。夏ならば溪流釣りを一緒にする。マウンテンバイクで針生を冒険、針生のキャンプ場でみんなで過ごすなどをしていきたい。

2021. 12. 22 南会津交流会の内容

前田 それではですね、最初に区長さんの方から針生の紹介と、多分ですね、うちの学生たち釣りがかなり好きですので、釣りのお話とか、針生南会津のお話をさせていただければよろしいかと思えます。宜しくお願いします。

区長 針生地区は、世帯個数は150件くらいです。人口的には400名くらいです。年齢構成的に言えば、65歳以上の高齢者、が45パーセント、海拔的には700メートルから750メートル。150件が点在している状態です。55件が耕作放棄地です。二割くらいしか使っていません。観光的にいえば、先ほどこうだいくんが言ったようにだいくらスキー場、夏場は駒止湿原などがあります。あとは、共有地が2000ヘクタールほどあります。だからそれを活用した地域おこしができたらいいなと思っております。だいたい針生地区の現状は今の状態です。

前田 はい、学生の方で今のお話を聞いて質問などありますか

川村 南会津町で今やっているアウトドア事業はどのようなものがあるのか聞きたいです。

長沼 アウトドア事業でいうと、南会津町ではスキー場が4箇所ありまして、あのそこでスキーが楽しめる。またはキャンプ場なんかあってあのグリーンシーズン、キャンプに来ていただいている。あと町で力を入れているのはあの教育旅行、合宿、民泊ですね。教育旅行についてはほしい2万人、合宿も毎年2万人くらいいます。コロナ禍で去年、今年は来れなかったんですけど。農家民泊にも力を入れていまして、令和元年に五千人来ました。教育旅行に力を入れている町です。あとはアクティビティっていうのは、スキー場でマウンテンバイク、別のスキー場なんですけど、ジップラインとかそういうのが楽しめるアクティビティがあるということです。以上です

前田 はい、他に学生の方から何かありますか。

区長さん共有地2000ヘクタール今何も始まっていない感じですか、

区長 今現在はですね、分収造林ってわかりますか、分収造林で250ヘクタールくらい、今は契約年数が60年くらいで、木の発育が良くないということで30年間の契約延長をしました。福島県との契約が、福島県が3割、地元が7割です。国との分収造林との契約が200ちょっとあります。それが、分配比率が5対5です。それで、林としてはカラマツがあります。カラマツが値段的にも杉と比べていいという状態なので昔の人は杉じゃなくてカラマツを植えてくれたなと感謝しています。

前田 これは、分収造林の他にも何か活用したいということ、どういうふうな方向で活用できたらなお考えですか

区長 去年、南会津町で駒止湿原、の隣接地に共有地があるのでそこに遊歩道、ブナ林なんですけど600メートルほど木道をひいて、遊歩道を作っております。

前田 これは、針生の区の方でやったんですか

区長 これは町の方でやりました。

長沼 あの駒止湿原の帰りのコースなんでちょっと砂利道になってい流ので、もっと森林の中をリラックスして歩けるようなコースを作るということになりました。

前田 そうなんですね、わかりました。

川村 南会津町にある登山できる山とかスキーとか、バックカントリーとかやっているところはありますか

長沼 バックカントリーできる場所があります。ただ、あまり山で滑っている人はそんなにいないのかなと思っています。で、登山は山開きをきちんとやったり、遊歩道をpせいびしているところは10箇所ですかね。南会津町、針生地区に関係している山といえば七ヶ岳と駒止湿原です。これらを整備しています。

川村 ありがとうございます

洪川 バックカントリーだとかうだいくんが知っていると思いますけど、バックカントリーの山とかちょっとうだいくんわからないですかね

湯田 えっと、南会津でもバックカントリーをしている山は、会津駒ヶ岳っていうところがあります。そこらへんの山がメインで、燧ヶ岳って山もあります。南会津町でも三ツ岩岳ってところもバックカントリーで登っている人もいます。そんなに人口はいないんですけども、年々バックカントリーをやっている人は増えているみたいで、私も仕事で救助に行くようなこともあるのあの雪崩の知識を勉強しているところです。

川村 ありがとうございます、その会津駒ヶ岳とか有名な人でガイドをしている人っていう人は言ってたんですけど、その人は南会津長に住んでいたんですか、

湯田 そうですね、南会津町で南郷トマトっていう特産品を作っていて、夏場のオフシーズンは南郷トマトをメインにして、冬は完全にバックカントリーのガイドって資格をとってそちらをメインに活動している方がいます。その人に自分も教わりながら、ガイドがいて、お客さんがいてそのあとついてもらって経験積んでもらっているところです

川村 バックカントリーに来るお客さんは県外からのお客さんが多いんですか、本州とか北海道とか

湯田 そうですね、関東とか遠くからこられる方もいて、300名山の山が福島は多いので、バックカントリーだけではなくて冬山でわかんを履いて滑りメインではなくて登山に来るお客さんも多いですね。

前田 冬山わかんって聞いてわかるさとむ

川村 え、スノーシューみたいなやつですよ

湯田 そうですね、こっちは鉄砲うち、熊とか鹿とかそうやってやる人、猟友会ですね。ガイドやっている方も猟友会に入ってあの冬山登ったりしているので、そういう時によく使

っているのがわかんじきとかですね。スノーシューとかじゃなくて、わかんじきの方が南会津は使っている人は多いかもしれないです。

長沼 一応猟友会の方が冬山の楽しみ方のガイドっていうのをやってました。冬の野外生物の足跡を探索したりとか、この足跡は狐だよ。うさぎだよとかですね、里山の冬を楽しむ案内をしている人もいらっしゃいます。そういうときはあのスノーシューですね。猟友会の方はわかんじきですけど、お客さんはスノーシューを履いてやっております。

前田 今学生一人増えましたので、倫太郎一言自己紹介してください

神尾 3年目の神尾倫太郎と言います茨城出身です。スキーがハマっています。

川村 農家をやっている割合も、南会津は多いですか。

長沼 農家をやっている割合が一番多いと思います。ただ、農家を専門的にやっている人というのは少なく、兼業でやっている方が多いです。

神尾 僕は昔、民課外保育施設の森のようちえんで山や川に毎日お弁当を持っていく生活を茨城県つくば市でしていたんですが、将来つくば市に戻りたいとは思ってなくて、今は新潟県に行こうとしているんですけど、やっぱり地元に戻りたいと感じたのはなぜですか。

湯田 なんでなんですかね～。考えれば考えるほど、俺は針生が好きっていうのが一番の根底にあって、なんでかって言われたら、一番は自然が好きで、雪が好きで、スキーも高校まで競技もやらせてもらっていたけど、東日本大震災があって、当り前にスキーをやらせてもらっている、好きなことができるのが当り前じゃにということを経験した。それで将来どうしたいかと考えたときに、今まで支えてくれた人たちに、地域に貢献できることをしたいなと考えて、地元で就職すると決めただけで、これはきっかけ。とにかく針生が好きで、地域貢献をしたいと考えた。絢有君見たいに南会津に来て、その良さを伝えるっていう人がいるように、それぞれ魅力を感じる場所っていうのがあると思うので、そういうところで活躍してもらえれば、すごくいいなと思います。絢有君が来てくれた時は本当に嬉しかった。だから多分、倫太郎君が来てくれる地域の人多分喜んで迎えてくれると思うし、いつか自分の地域に帰った時に楽しい話ができればいいなと思います。

前田 航大君は針生にどういう風になってもらいたいと思いますか。

湯田 今は針生を出て生活しているんですけど、やっぱり針生に住みたい。針生に観光地ができたり、経済的に発展したりっていうより、今の針生の良さを維持していきたいと思います。人が増えたりするよりは、あまり自然を壊さずに残していけるものは残していきたい。かつ魅力は伝えていきたいと思っているので、子どもたちが針生が好き、南会津が好きって思ってもらえれば、いいのかなと思っています。

前田 4年前、2年前に学生と針生に行って色々お話聞かせてもらった時も、みんな観光地になるよりも今の静かな感じがいいとか、そういう人の方が多くて、でも元々針生は民宿も多かったし、人の受け入れをしてきたところですね。

区長 現在も地元の企業が別荘とかで地元貢献できるということで、地元の土地を売買ではなく貸借という形で別荘を建ててもらって、一区画年間10万〜で40棟くらいは別荘的な建物が建っています。現在別荘には20世帯近くの方が住んでいます。それがなければ戸数的にも寂しくなるし、地元企業が頑張ってくれたおかげもあるのかなと思います。

前田 絢有は、針生にどういう風な仕事が可能になると考えていますか。こういうことができるんじゃないかとか。

渋川 航大君が言っていたように、人がたくさん来る観光地的な可能性みたいなものをあまり針生には求めたくない。このままが素敵だなと僕も思います。僕がこうなっていればいいと思うのは、子どもたちが自分の遊び道具を持って集まって、どこかへ冒険しに行くような一拠点、子どもたちが遊べるし、それを見てあげる、指導する大人もいる、地域として見守っているような風景がずっと残っていけば素敵だと思う。すぐにはできないけれど、きっかけ的なことができないかなということで、子どもたちを集めて、外遊びみたいな感覚の交流会兼遊び会みたいのができないかなと子ども世帯に呼びかけたり、そういう風景が僕はいいかと思います。

川村 自分も上川町の地域起こしに入るんですけど、航大さんとか絢有さんのような考え方もありだなんて思いました。正直、上川町に行ったら、自分が上川町を全国、本州の人とかに届けようとか考えていたので、地元の子どもたちにも視線を当てて、地元の子も楽しめるっていうアウトドアの考え方も必要だと、お話を聞いて感じました。

神尾 僕もあまり発展させずに今の形でっていうのはいいなと思うし、それが色々な人に伝わっていけばいいなと思っています。でも、その形でいくと、あまり人が集まってこない可能性もあるんじゃないかなというのも自分の中ではあって、だからこそその良さを発信する機会や場所を作っていくことが大切だと感じました。

前田 学生に聞いてみたいことはありますか。

長沼 どんなアウトドアが好きですか。

川村 冒険心をくすぐるようなアウトドアをやりたいです。釣りだけとかよりは、釣りと、そこに大きい山があったり沢があったり、最低限の荷物で数日間過ごしたりとか。自分の日常が自然の中にならずとあるみたいな空間で冒険していくアウトドアを今後やりたいと思っています。そうすればアウトドアスキルも高まるし、自分が将来子どもや大人の人にアウトドアを教えるときに、幅が広がる、みているアウトドアのフィールドも広げて、最後は初めてやる人とかに自分が経験してきたことを活かせるような活動をしたいと思っています。

神尾 キャンプの延長で、自転車にテントを積んで、去年は4泊5日で帯広旅行をしました。大学生になってから始めたスキーも大好きで、去年からバックカントリースキーも始めました。海や川に遊びに行ったりもします。

前田 うちの学生たち、他に熱心にやっているのってなんだろう。

川村 登山とかクライミングとか。テレマークを極めてスキーのライダーみたいな形で活動している人のように、1つのことを極める人もいます。後輩にはマウンテンバイクをやっている人もいます。アウトドアって言っても色々幅が広いですね。

湯田 みんなアウトドアが好きで、キャンプだったり、自転車で旅をしたり冒険したり、それぞれある中で、そういうのは学生同士で言ったりするんですか。

川村 学生同士が多いです。僕が初めて釣りを教えてもらったのは絢有さんで、先輩から学んだりして、そこから自分で興味を持ってやる人もいますし、授業で本格的な実習や専門的な学習をしていく中で自分が特に興味を持ったものを極めてやるっていう人もいます。逆に辛い思いをしすぎて、あまりアウトドアをしない学生もいて、全員がアウトドアをやるっていうわけでもないです。社会人になってもやるっていう人は多くはないように感じます。実習で終わってしまう人もいて、自分の立場から見たら勿体無いようにも感じます。

神尾 僕もほとんど大学の学生や先輩が多いです。たまに本州の友達を呼んだりもしますが、少ないです。

湯田 二人とも元々小さい時から釣りが好きとかそういう環境にあったのか、どういう風

にその大学に興味を持ってアウトドアをやろうと思ったのか。

川村 高校まではずっと野球をやっていて、スポーツの方に入ろうと思って、今まで少しやっていたアウトドアの方に進もうと思った。そしたらどんどん興味が湧いて今はこっちの方が好きで頑張っています。

神尾 僕は森のようちえんにいたので、1歳から6歳までは外遊びで過ごして、小学校に入って、今のボーイスカウトみたいなことをやって、中学高校はアウトドアとは離れて陸上をやっていました。やっぱりアウトドアやりたい、将来森のようちえんみたいなこともしたいなと思って、この大学を選びました。

湯田 素晴らしいですね。地域に残って消防という道に進んで、時間があるときに地域に貢献できればと思ってやっているけれど、それをメインにやるっていうのはすごい。絢有君も一緒にいろんなことを話したりやったりしていると、本当にここを良くしようと思ってくれているんだと、そういう気持ちを持つのはすごくいいことだと思います。

区長 学生の皆さんはどうして北海道教育大学に行こうと思われたんですか。終わったら地元に戻るといふ人はいますか。

川村 北海道に行こうというよりは、体育科の大学を探していて、最終的に北海道になりました。入学してからは様々な経験を通して、アウトドアが好きになりました。地元は岩手ですが、北海道の自然がすごく好きなので、こっちの方で働いて、いろいろ貢献できるように頑張ろうかなと思いました。

神尾 高校時代には陸上にシフトしていたんですが、一度だけ小学生のキャンプに同行させてもらって、そこでやっぱりアウトドアっていいなと思ってアウトドアの学部を探したら、信州大学と岩教があって、こっちを選びました。将来は地元茨城に戻らず、新潟で最初は農家をやりたいなと思っています。

前田 うちの学生は4学年で50人くらいいるんですけど、半分くらいは北海道出身、半分くらいは本州からって感じで、だいたい就職は北海道でっていうのが多いかもしれないですね。最近ここ2、3年でようやく、アウトドア系に就職したいって思う学生が多くなっていて、それまでは公務員とか民間企業とかが多かったです。

湯田 針生小学校は壊す予定ありますか。

区長 耐震基準を満たしていなため、決まった人しか使わないということであればという感じですよ。

湯田 最初話したように、ある資源を使って何かできないかなということでも、絢有くんとも良く話さんですけど、棚田とか景色もすごく綺麗なんで、何段かキャンプ場みたいにはできないかなって想像したりとか、この場所をもっと良くしたいな、みんなに見て欲しいなっていうのを考えています。その1つで、針生小学校も廃校だけどみんなで利用できないかなと思ったけど、厳しんですよ。

前田 キャンプ場の調査をやっている学生がいて、イマドキのキャンプ場って結構変わってきているんですよ。棚田とかもいいかもしれないですね。

湯田 昔からあの場所、山が綺麗に見えてすごい好きだった。そこに絢有君が住んでくれて、今年初めてキャンプしたんですけど、本当に最高の景色で、もったいないな、見て欲しいなってすごい思うんですけどね。

前田 本当は学生たち針生に滞在して、色々いいところを見つけたりとかしたかったんですけど、コロナで行けず残念ですね。来年度以降どう進めていくか、できれば現地に行きたいなと思っております。本日はお忙しい中ありがとうございました。またよろしく願いいたします。